

令和5年度 東三鷹学園 三鷹市立北野小学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価 各学園内で統一記述			学校評価 各学校ごとに記述													
今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること			来年度の重点課題を解決するための改善策			今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述					来年度の改善策 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述					
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善策			取組項目	学校の経営目標 (中期目標)	今年度の重点目標 (本年度目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組 成果	第2回評価 取組 成果	自己評価(第2回)		学校関係者評価(第2回)		
コミュニティ・スクールの運営	2. CS委員会や学園のPR活動の推進 3. サポート隊の充実、地域人財の活用(教育ボランティア) 4. スクール・コミュニティの創造に係る	1 学園スタンダードの目的や意義、活用方法について児童に周知を図って取り組むことにより、児童や保護者が意識的に活用することができ、意識調査においても、〇〇〇2 保護者や学校により、CSについての周知や広報を行った。 3. フォームの活用等を行うことにより、効率的に手続きや申し込みを行うことができた。 4. 地域コーディネーターや地域子どもクラブ代表等と検討を重ね、放課後の子どもの居場所づくりの拡充を進めた。	1の課題 ○ 学園スタンダードがキャリア・パスポートとして、児童がなりたいた自分に向けた自己実現の目的を達成させるために、項目等を改善する必要がある。 ○ 次年度さらに2部の充実を図るために、地域や保護者の協力を得る必要がある。 1の改善策 ○ 学園スタンダードの活用状況や課題について、児童及び教員からアンケートを実施したことを踏まえて、次年度CS委員会と連携を図って改訂する。 ○ 児童の放課後の居場所づくりとして、毎日学校の施設開放を行う。また、地域人材を活用して定期的に取り組む活動を行い、2部の充実を図る。	取組項目 CS委員会と協働して地域の方々と共に教育活動の充実を図り、スクール・コミュニティの中心としての役割を担う。 地域・保護者と連携した教育活動を推進する。 地域学習の充実や地域人財の有効活用。 ・学園スタンダードの取組について、教職員や保護者相互に情報交流をする機会をつくる。 ・各学年で各学期に1回以上地域人財を活用した活動を行う。	今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述	来年度の改善策 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述	人間力・社会力・体力の育成	CS委員会と協働して地域の方々と共に教育活動の充実を図り、スクール・コミュニティの中心としての役割を担う。 地域・保護者と連携した教育活動を推進する。 地域学習の充実や地域人財の有効活用。 ・学園スタンダードの取組について、教職員や保護者相互に情報交流をする機会をつくる。 ・各学年で各学期に1回以上地域人財を活用した活動を行う。	3	4	4	4	①各教育活動において、継続してサポート隊を活用している。②今年度新たに、「新川囃子保存会」、「Mitakaみんなの防災」の皆様から協力をいただいている。また、キャリア・アントレプレナーシップ教育として「Kitano Green Company」の活動に6年生が取り組んでいる。	①引き続き応援しています。②今後もサポート隊を活用していってほしい。③スタンダードについて教職員と保護者が情報交流して下さりありがたいです。教員は入れ代りがあると思うので昨年度比ではなく参加率でいいのではなからうかと思いました。④サポート隊募集に対し、保護者や地域の意識が高いと感じ、これからも継続できるように望みます。地域行事に学校が参加していること、とても嬉しく思います。これからも宜しくお願い致します。⑤学園スタンダードの取組について、どの様な評価となっているのか明記があると良いです。⑥「おもつき」の時は、おもはつきあがるまで長時間だったが、先生方の協力もあり、子どもたちがつかえなくて良かった。⑦サポ一隊のイベントの参加率が保護者の児童に対する熱心さが伺えます。地域の行事を加えてくれる先生方の参加率にも驚きました。⑧正に地元の各団体をまき込んでの運営というところで、街づくりの一貫としてとても頑張ってもらっていると思う。⑨子どもたちが地域の行事に取山参加しているのを見てはほましく思います。		
としましての中間教育活動	1. 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2. 相互乗り入れ授業の充実 3. 児童・生徒の交流活動の充実	1 学園カリキュラムに基づいて、本校の実態を踏まえた「めあての提示および板書、振り返りの実施」を行うことができた。 2 相互乗り入れ授業については、担当教員と受け入れ学校の教員との連絡を密にして、指導に入ることにより、丁寧な指導を行うことができた。 3. 中学生のボランティア活動を見て、児童が中学生に対してあこがれの気持ちをもつことができた。また、小小交流をすることにより、多様な人の中でコミュニケーションを図ったり、自己表現をする力を育むことができた。	2の課題 ○ 書く力が粘り強く学習に取り組む姿勢に課題がある。 ○ あいさつ運動やいじめ防止に向けた取組等については、児童に主体的に取り組むように働き掛けることが十分にできなかった。 2の改善策 ○ 児童自身がなりたいた自分を思い描き、その実現に向けて計画を立てて粘り強く取り組む力を育むよう、校内研究等を行い、授業研究に取り組む。 ○ ふれあい月間にあわせて代表委員会を中心としてあいさつ運動等に取り組ませる。その際、保護者や地域の方々にも呼び掛け、地域全体であいさつ運動を実施するようにする。	取組項目 小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を目指す。 小・中学校相互で食育に取り組み、地域性を活かした授業を充実させる。 ・児童・生徒の実態調査や学園全体の取組、食育の授業等、食育をテーマとして学園カリキュラムを改善する。	小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を目指す。 小・中学校相互で食育に取り組み、地域性を活かした授業を充実させる。 ・児童・生徒の実態調査や学園全体の取組、食育の授業等、食育をテーマとして学園カリキュラムを改善する。	①民間企業の協力を得て、食育を実施した。②食育アンケートにおいて課題となった「和食文化」についても、ゲストティーチャーを招いて授業を行った。 ③5年生の総合的な学習の時間において、健康・安全で楽しい給食のメニューを考えて栄養士に提案し、今後給食の献立にする。	学園・学童運営	小・中一貫校「東三鷹学園」の教育活動の質的向上を目指す。 小・中学校相互で食育に取り組み、地域性を活かした授業を充実させる。 ・児童・生徒の実態調査や学園全体の取組、食育の授業等、食育をテーマとして学園カリキュラムを改善する。	4	4	3	4	①8月に教員のネットワークシステムが入れ替えになり、新たな校務用パソコンとタブレット端末の連携が容易になったことから、一層の活用を進めている。②学習支援員を増員し、計画通りにみたく地域未来塾やジャンプアップを実施している。	①この内容を広く共有したい。②大人になると和食の良さが分かるのですが、③ゲストティーチャーの授業は担当の先生の授業と違い専門性を学べる機会となるので、すばらしい取り組みだと思ふ。④自己評価は食育を実施していることについての評価でよいか? 学園カリキュラムの改善の達成度などについてでしょうか。成果は児童の満足度にもよいものではないか? 何事にも主体的に取組める様な環境に育ててほしい。⑤食育はどのようか? 課題にあがっているのか? みてほしい。⑥先生同士の参観はとも良いと思います。⑦学園研究については、地域も公開してほしい。⑧ネットワークシステムが改善されたのは効率がアップしてとてもいいと思います。みらい塾を通じて児童の学力アップに繋がるといいですね。⑨システムの入れ替え、学習支援員の増員と、それぞれの立場の連携が前を向いている。研究会も実施し、教員のスキルアップも図れている。		
(知) 豊かな学力	1. 基礎学力の向上 2. 教員の指導力の向上 3. 家庭学習の充実 4. みたく地域未来塾をはじめとした補充学習等	1・2 e ライブラリーの活用や百ます計算等を全学級で取り組み、基礎学力の定着を図った。 1・4算数授業のサポート隊の募集を毎月行うとともに、地域未来塾において、地域の方々で連携して個別に支援が必要な児童の学習の理解や学力の向上を図ることができた。 3 家庭学習の内容や確認の仕方について、学年毎に話し合い、取り組むことができた。 4. みたく地域未来塾をはじめとした補充学習等	3の課題 ○ 書く力が課題があるため、朝学習で取り組ませたが、学校全体で系統的に取り組むことができなかった。 ○ 家庭学習において、自主学習については、学級によって取組状況が差があった。 ○ サポート隊の募集を、担任や担当が計画して募集する場が中心となっていた。 3の改善策 ○ 朝学習において、研究部から、発達段階に応じた書く活動の取組内容について指導計画を立てて実施する。 ○ 家庭学習の取り組み方について、教員が共通理解を図って取り組ませる。 ○ サポート隊の募集や配置等については、サポート隊の協力を得て、サポート隊が主体的に行うように協力を依頼する。	取組項目 児童一人ひとりに合った学びを実現するために、手立てを明確にした授業改善を推進する。 教員の授業力の向上を図る。	個別最適な学び、協働的な学びの実現 学習用タブレット端末の有効な活用を有効に活用して学力の向上を図る。 個別最適な学び、協働的な学びを実現するために、手立てを明確にした授業改善を推進する。 ・自主研や校内研究、学園研究等の機会を通じて目指す児童像を共有し、手立てを明確にした授業実践をする。 ・めあての提示、見通しをもたせた学習活動、振り返りを行い、児童が粘り強く学ぶ姿勢を育む。	①2部制の中で未来塾と子どもクラブの連携で学習の場が増やせたらいいと思います。②計画通りに進められるのはうれしいです。③先生方の研究会は、子ども達に必ず還元されるものと信じています。更なる学び合いを期待します。④成果は児童の満足度(確かな学力が身に付いている実感など)だと感じています。成果は児童が手立やめあてをどこくらい理解し、粘り強く学べたかという点だと感じています。⑤未来塾支援員も増え充実してきていると思います。有効活用して下さい。⑥先生同士の参観はとも良いと思います。⑦学園研究については、地域も公開してほしい。⑧ネットワークシステムが改善されたのは効率がアップしてとてもいいと思います。みらい塾を通じて児童の学力アップに繋がるといいですね。⑨システムの入れ替え、学習支援員の増員と、それぞれの立場の連携が前を向いている。研究会も実施し、教員のスキルアップも図れている。	としましての中間教育活動	児童一人ひとりに合った学びを実現するために、手立てを明確にした授業改善を推進する。 教員の授業力の向上を図る。	3	4	4	4	①10月25日に学園研究会を、11月8日に校内研究会を実施した。授業研究を核として教員の指導力向上につなげていく。②二期の自主研ではそれぞれの学年で同一の単元の授業を教員同士が参観し合い、一層の学び合いを進めている。			
(徳) 豊かな人間性	1. 人権と言葉を大切に指導の推進 2. デジタル・シティズンシップ教育の推進	1 いじめ防止対策委員会を各学期に開催し、いじめ防止に向けて教職員の共通理解を図ることができた。 1 学園スタンダードについての意義を、全学級において指導を行い、学期の始めに意識付け、終わりに振り返りを毎学期行った 2 全学級でタブレット端末やSNSの使い方を指導して児童相互に話し合わせ、学級毎にめあてを立てて主体的に取り組ませた。	4の課題 ○ 保護者の意向を尊重してことにより、早期対応が遅れたケースがあった。 ○ 学校全体であいさつ運動等に取り組むことが十分にできなかった。 ○ 家庭でのゲーム等の使い方について、児童に十分に意識づけすることができなかった。 4の改善策 ○ 保護者や児童の意向を大切にしながらも、道徳科において意識付けや話し合いをさせる。個別に支援をする等を行うように、教員に周知を図る。 ○ あいさつ運動を、地域と連携して実施できるように計画し、地域の方々に参加できるようにあらかじめ依頼していく。 ○ 保護者や学年だより等において、家庭における学習用タブレット端末やゲームの使い方について、保護者の協力を依頼し、保護者と連携して取り組んでいく。	取組項目 みんなでつくるみんなが楽しい学校を目指す。 いじめの未然防止、早期発見、早期解決をめざし、児童の規範意識および自己有用感を高める。 ・いじめ防止、言葉遣い、廊下行動、靴箱の整理など日常的な励みや決まり・ルールを守ることを大切にした指導を徹底する。 ・デジタル・シティズンシップ教育を推進する。	いじめの未然防止、早期発見、早期解決をめざし、児童の規範意識および自己有用感を高める。 ・いじめ防止、言葉遣い、廊下行動、靴箱の整理など日常的な励みや決まり・ルールを守ることを大切にした指導を徹底する。 ・児童が学習用タブレット端末の効果的な活用方法ややり方を主体的に考え発信する機会をつくる。	①週ごとの生活指導目標を定め、先の内容も踏まえて毎週指導している。また、毎月の安全指導日を固定し、全校で共通の指導を行っている。②デジタル・シティズンシップ教育については、教員研修を実施した。12月の市全体の熟識を踏まえ、各学級で「私の行動宣言」を作成し、教室の廊下に掲示している。(再掲)	児童・生徒の学力・健全育成	みんなでつくるみんなが楽しい学校を目指す。 いじめの未然防止、早期発見、早期解決をめざし、児童の規範意識および自己有用感を高める。 ・いじめ防止、言葉遣い、廊下行動、靴箱の整理など日常的な励みや決まり・ルールを守ることを大切にした指導を徹底する。 ・児童が学習用タブレット端末の効果的な活用方法ややり方を主体的に考え発信する機会をつくる。	3	4	3	4	①細かくて具体的なめあての指導は、子どもも取り組みやすくてよさそうです。②担任の先生の見えない所で傷ついている子どもがたくさんいると思う。一人一人とのコミュニケーションを大切にしたい。③成果には児童の満足度があると嬉しいですが、児童の評価を載せてくださりありがとうございます。④お忙しい中、研修等お疲れ様です。これからも子ども達のために宜しくお願い致します。⑤子供たちのアンケートによって先生方が学級集団の状況を把握して下さる			
(体) 健康・体力	1. 体力の向上 2. 地域貢献する力の育成 3. 健康にかかわる食育の実践	1 縄跳びや長縄、持久走間等を季節ごとに実施し、児童が目標をもって身体づくりに取り組むことができる機会をつくった。 2 元オリンピック選手を招へいして、目標をもって取り組むことの大切さ、粘り強く挑戦しつづけることの大切さを学ぶことができた。 3 学校農園では、栽培途中の活動も経験させていたことともに、収穫した野菜は、学校給食にも活用して、家庭と学校で味わうことができるようにした。	5の課題 ○ 体力テストの結果を踏まえた授業改善については、まだ十分にに取り組むことができなかった。 ○ 一人一人の児童がボランティアに参加するように意識付けできているかを確認することはできていない。 5の改善策 ○ 体育部で、体力テストを踏まえた授業改善についての研修会を実施する。また、体育朝会等においても取り入れる。 ○ ボランティア参加について目標を立てて取り組み、振り返る機会をつくる。	取組項目 体力向上を推進する。 ・校庭芝生を生かした運動の日常化、体力テストの分析考察による効果的な体育授業改善。 ・児童の地域行事参加や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。	・休みの時間外遊びの推奨、体育朝会、縄跳びチャレンジ、北野ランランなどの取組をより効果的に実施する。 ・児童の地域行事参加や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。	①農園活動では、児童が野菜づくりに関わる機会を一層増やし、生産者の工夫や苦労について体験的に学ぶことができるように改善している。	児童・生徒の学力・健全育成	体力向上を推進する。 ・校庭芝生を生かした運動の日常化、体力テストの分析考察による効果的な体育授業改善。 ・児童の地域行事参加や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。	4	4	3	4	①芝生養生期間に、全校で短なわに取り組んだ。現在は長なわに取り組んでいる。②体力調査の結果は、レーダーチャートを用いて視覚的に分かりやすくとめ、体育授業の改善したり、生活習慣の改善に向けた啓発を進めたりしていく。			
特色ある教育活動	1. 特色あるキャリアアントレプレナーシップ教育 2. オリリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等	1 第6学年では、地域の農家、起業家、福祉施設と連携して、起業家教育を実施することができた。 2 元オリンピック選手を招へいして、目標をもって取り組むことの大切さ、粘り強く挑戦しつづけることの大切さを学ぶことができた。	6の課題 ○ 全学年が発達段階に応じて系統的に地域人財を活用して学習に取り組むことができなかった。また、教員が中心となって地域に協力を求めて実施する学年があった。 ○ 一部の学年に限定された取組となった。 6の改善策 ○ 各学年において、発達段階に応じて地域人財を活用して取り組む学習を一覧にする等して可視化しておく。また、地域コーディネーターを活用して、地域人財を紹介していただくようにする。 ○ 全学年が体験的に学ぶ機会をつくる。	取組項目 サポート隊や地域協力者の協力を得て、東三鷹学園や北野小学校の地域を元にした体験的学習の充実を図る。 オリリンピック・パラリンピック教育の継続を推進する。	・各学年で、外部関係団体の協力を得て、アントレプレナーシップ教育の授業を行う。 ・年間1回以上、各学年でJAや大学などの地域の方々や連携した探究授業を行う。 ・全学年でオリリンピックレガシーが継承されるような活動を行う。	①JA青壮年部と連携した「どんぐりプロジェクト」の学習がスタートしている。②キャリア・アントレプレナーシップ教育「Kitano Green Company」の活動では、地域の農家の皆さんからのご指導を踏まえ、12月上旬に6年生が実際に野菜販売を行う(販売促進のためのチラシを作成し、保護者等への説明会も実施した)。	コミュニティ・スクールの運営	サポート隊や地域協力者の協力を得て、東三鷹学園や北野小学校の地域を元にした体験的学習の充実を図る。 オリリンピック・パラリンピック教育の継続を推進する。	1	3	3	3	①アウトブット大事ですね。②児童の満足度も知りたいたいと思います。③福祉に関する活動は少ない気がしています。④6年生のアントレ活動は、とても生き生きと児童が活躍したのしかったです。⑤JAの方との学習や地域農家さんとの交流は良いことですね。野菜販売も生徒たちにいい経験だったと思います。⑥農業、外国語、これからの時代の重要なファクターなので、ここに入れて活動して欲しい。			
教育の質の向上を目指す学校の働き方	1. 教職員のライフワークバランスの推進 2. 地域行事等への参加	1 全校朝会、職員会議、夕会等の回数を精選することにより、教職員が業務や教材研究、児童への補習等に時間を増やすことができた。そのため、昨年度に比べて教職員の超過勤務の時間が減少した。 2 地域行事において児童が発表する機会をつくり、主体的に参加することができた。また、教職員も積極的に地域行事に参加し、地域の方々や交流するよう努めた。	7の課題 ○ CSIに係る教育活動やCSの活動の目的や意義や、保護者や地域、教職員への共通理解が十分に図られておらず、形骸化や前例踏襲となっている活動がある。 7の改善策 ○ CSの目的を踏まえて小小交流や小中交流、乗入授業、熟識等の意義や目的等を再確認し、必要に応じて内容を改善したり精選していく必要がある。	取組項目 教職員が自らにライフワークバランスを整えることを推進する。 児童も教員も地域との関わりを深める。	・校務の見直しやスクールサポートスタッフの活用などにより、働き方改革を推進する。 ・月2回以上の定時退勤日の設定と1週間て1時間の在校時間減を推進する。 ・児童の地域行事参加推奨や地域学習を1年を通じて行い、地域との関わりを活性化させる。 ・学校の教育活動において、地域の方々や協働した地域学習を学期に1回以上行う。	①定時退勤しやすいうちに、会議の回数を削減した。②授業時間数を調整して教員が個々の業務に取り組むやすい日を複数設定している。 ③仕事量が多いと思いますが、工夫されていると思います。お疲れ様です。④授業以外の行事、準備などがありお忙しいと思いますがインフルエンザも流行しているのでご自愛下さい。地域の方からの	学校の働き方改革	教職員が自らにライフワークバランスを整えることを推進する。 児童も教員も地域との関わりを深める。	2	2	2	3	①生活科での「まちたんけん」「もつとまちたんけん」では、地域の様々な施設を訪問してインタビューを行っている。保護者ボランティアも数多く参加してくださっている。②園工で行っている焼き物づくりの完成形としての「生け花」(児童が作った花器に生ける)は、SC推進員から講師の先生を紹介していただき、昨年度から実施している。今年度も実施予定である。			